



■ 町民アンケート調査結果まとめ

1 あなたご自身について

- 性別は、女性がやや多いものの、**男性、女性ともに概ね半数**となっています。
- 年齢は、**40代から60代で約6割**を占めて多くなっています。
- 職業は、**公務員・団体職員、社役員・会社員が共に約2割**を占めて多くなっています。
- 家族構成は、**二世帯同居（親と子）が約5割**を占めて多くなっています。
- 居住地区は、**上条、沓野・湯ノ原、本郷・宇木などが多くなっています。**
- 居住年数は、**10年以上居住の方が8割**（うち、20年以上居住の方は約6割）を超えています。
- 居住年数が短い方の**転居理由は、転勤・転職、就職・進学**などが挙げられています。
- 住まいは、**持ち家（一戸建て）の方が8割**を超えています。
- 通勤・通学先は、**町内が約4割**を占めて多いほか、**中野市への通勤・通学が約1割**見られます。
- 通勤・通学の主な交通手段は、**自動車による通勤・通学が約6割**を占めて多くなっています。

2 居住地域における生活環境について

- 生活環境の満足度については、“公共交通”や“買い物”の利便性、“歩行者・自転車道”の整備に関する項目の満足度が高い一方で、“上・下水道”や“住宅地”の整備に関する項目の不満足が高くなっていることから、**町民の意向を踏まえた上・下水道や住宅地の整備などの検討**が求められます。

3 今後のまちづくりの方向性について

3-1 将来の山ノ内町について

- 将来の山ノ内町のイメージについては、「観光・交流が盛んなまち」、「医療・福祉環境が充実したまち」、「災害に強い安心・安全なまち」などの回答が多く、**“観光・交流”、“医療・福祉”、“安心・安全”を念頭に置いたまちづくり**が求められます。

3-2 今後の『計画的な土地利用の推進』について

- 今後の土地利用については、**都市施設整備などを集中して行う“用途地域”と開発の抑制を基本とする“周辺地域”を明確に区分**し、計画的な土地利用を進めることが求められています。

3-3 将来の都市施設について

- 将来の都市施設については、**将来のまちのイメージにも挙げた“医療・福祉施設の整備”**のほか、“道路の整備・維持管理”や“公共交通の充実”などの回答が多くなっています。現在の生活環境の満足度では、“公共交通”や“歩行者・自転車道”の満足度は高くなっていましたが、今後、**道路の整備・維持管理や公共交通の更なる充実が必要**と考えられます。

3-4 まちづくりの優先度について

- 市街地と農村では、“**どこでも暮らせるまちづくり**”（約6割）を優先する方が、“市街地を中心としたコンパクトなまちづくり”（約2割）を優先する方を上回っています。
- 都市環境と自然環境では、“**自然環境の保全**”（約5割）を優先する方が、“都市環境の整備”（約1割）を優先する方を上回っています。
- 住民生活と観光振興では、“**住民生活**”（約4割）を優先する方が、“観光振興”（約2割）を優先する方を上回っています。

⇒今後の土地利用に対する設問では、“用途地域”と“周辺地域”の明確な区分を望む声が多くある一方で、**暮らし・生活の視点からは、“（農村部であっても）今ある暮らしを維持したい”、“観光振興より住民生活が優先”との町民意向が推測**されます。また、**本町の貴重な財産である“自然環境の保全が優先”との意向も強く**、将来的な人口減少なども踏まえつつ、“**市街地と農村**”、“**都市環境と自然環境**”、“**住民生活と観光振興**”が**相互に共生できるまちづくり**が求められます。

3-5 コンパクトなまちづくりについて

- コンパクトなまちづくりについては、“空き家・空き地”などの活用、“医療・福祉環境”や“子育て環境”の向上などの回答が多く、町民の将来的な人口減少や少子高齢化社会の進行に対する不安が顕著に見られることから、**空き家・空き地対策、医療・福祉や子育て環境の向上に率先して取り組んでいく**ことが求められます。

3-6 新型コロナウイルスを契機としたまちづくりについて

- 新型コロナウイルスを契機としたまちづくりについては、“新たな生活様式に合わせた機能を持つ施設整備の促進”、“災害・感染症等リスクへの対応、運動不足やストレス緩和に役立つオープンスペース・緑の確保”などの回答が多く、**新たな生活様式に合わせた機能を持つ施設整備、オープンスペース・緑の確保の検討**が求められます。

3-7 住宅地について

- 住宅地については、“空き家や空き地の活用”、“既存住宅地の生活環境の整備・改善”、“高齢者・障がい者に配慮した住環境の整備”などの回答が多く、**既存ストックの活用・改善、バリアフリー化やユニバーサルデザインを意識した住宅地づくり**が求められます。

3-8 商業地について

- 商業地については、“空き店舗・空き地の活用”、“温泉街への活性化支援”、“コンビニ・スーパー・飲食店の立地誘導”などの回答が多く、**空き店舗・空き地の活用、日常生活・観光振興に必要な商業施設の確保などを検討しながら、商業地・温泉街の活性化**を図ることが求められます。

3-9 工業地について

- 工業地については、“緑化などによる周辺環境との調和”、“助成制度などを活用した企業立地の推進”などの回答も多く、**周辺環境との調和を促すとともに、企業立地の推進を検討**していくことが求められます。

3-10 農地について

- 農地については、“保全と開発の調整を図るべき”（約4割）、“開発を抑制し積極的な保全に努めるべき”（約3割）などの回答が多く、町民意向を踏まえながら、**保全と開発の地区を明確化し、保全すべき優良農地は積極的に保全**していくことが求められます。

3-11 森林・山林について

- 森林・山林については、“今後も開発は抑制し、保全に努めるべき”、“自然環境に配慮しつつ、一定の開発はやむを得ない”、“林道整備など林業の振興につながる整備”との回答が共に約3割と拮抗しています。上信越高原国立公園を含む本町においては、**森林・山林の保全を基本としながらも、保全と開発のバランスをとれた取り組み**が求められます。

3-12 河川について

- 河川については、“河川の保全に努めながら、災害に備えた一定の整備”（約6割）、“水辺で親しめるような河川公園等の整備”（約2割）などの回答が多く、**災害対策や親水空間に活用できる河川の整備**が求められます。

3-13 道路について

- 道路については、“冬期間も安全な道路整備”、“住宅地や通学路などの身近な道路整備”、“安全に歩ける歩道整備”などの回答が多く、**雪対策や歩行者などに配慮した生活道路の整備強化**が求められます。

3-14 公共交通について

- 道路については、“長野電鉄”や“コミュニティバス「楽ちんバス」”の利便性の向上・施設の充実、“鉄道とバスなどの乗り継ぎ連携の充実”などの回答が多く、**長野電鉄や「楽ちんバス」の更なる利便性の向上、鉄道とバスの連携強化**が求められます。

3-15 公園や広場について

- 公園や広場については、“山・川・温泉地など周囲の環境を活かした公園整備”をはじめ、“散策路や広場などがある公園整備”、“遊具のある身近な公園整備”などの回答が多く、**本町の自然や温泉地を活かした公園、子供から高齢者までが気軽に利用できる公園の整備**が求められます。

3-16 景観形成について

- 景観形成については、“空き家・空き地の解消”、“温泉街特有のまちなみ保全”、“緑豊かな自然景観の保全”などの回答が多く、**空き家・空き地対策、本町の特長となる温泉街や緑豊かな自然景観の保全に率先して取り組んでいく**ことが求められます。

3-17 安心・安全なまちづくりについて

- 安心・安全なまちづくりについては、“空き家の解消”、“防災備品の拡充”、“橋や建物の耐震化の促進”などの回答が多く、他の設問でも多く回答が見られる**空き家対策をはじめ、防災備品の拡充、耐震化の促進**が求められます。